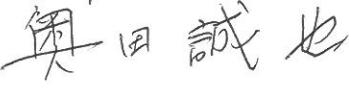
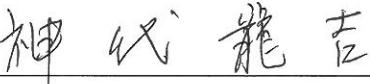


## 審査結果の要旨

|  |                   |   |       |
|--|-------------------|---|-------|
| 報告番号   | 乙 第 <b>2811</b> 号 | 氏名  | 佐々木 望 |
| 審査担当者  | 主査                | <br>(印) |       |
|  | 副主査               | <br>(印) |       |
|  | 副主査               | <br>(印) |       |
| 主論文題目：<br>Usefulness of Serum Hepatic Fibrosis Markers in the Diagnosis of Nonalcoholic Steatohepatitis (NASH)<br>(非アルコール性脂肪性肝炎の診断における、血清肝線維症マーカーの有用性(ナッシュ)) |                   |   |       |

### 審査結果の要旨（意見）

非アルコール性脂肪性肝(NASH)の診断は、現在、肝生検組織を用いた組織診断が gold standard である。本研究では、非侵襲的な NASH の診断方法の確立を目的として、Type III procollagen N-peptide、IV型 コラーゲン、ヒアルロン酸、レプチンの血中濃度を 9 例の脂肪肝症例と 16 例の NASH 症例において測定し、その有効性を検討している。その結果、4 つのマーカー共にある程度の有用性が示されたが、特に IV型 コラーゲンが、脂肪化や線維化の程度と有意な相関を示し、NASH の診断においても、感度 68%、特異度 67%、診断効率 68% と高い有用性が示された。本研究は、NASH の非侵襲的診断方法として血中 IV型 コラーゲン濃度測定が有用であることを明らかにした重要な研究であり、学位論文として極めて価値の高いものであると判断する。

### 論文要旨

今回、肝組織所見と肝線維化マーカー値を比較し、NASH における肝線維化マーカーの診断的有用性を検討した。肝疾患関連抗体陰性で、アルコール・薬物摂取が否定され、腹部超音波検査で脂肪肝を認めた 25 症例を対象とした。生検肝組織所見で小葉内の炎症の有無により FL(simple steatosis) 群 9 症例と NASH 群 16 症例に分類。Brunt の分類により各組織所見について評価し、生検時の血液生化学、血中肝線維化マーカー、leptin の測定値と比較検討した。Type III procollagen N-peptide (PIIP) 値は steatosis の程度と、Type IV collagen (TyIV) 値は steatosis、pericellular fibrosis、perivenular fibrosis の程度と有意な正の相関を示した ( $p < 0.05$ )。ROC 曲線を用いた検討では、NASH の診断効率は TyIV 68%、PIIP 64%、Hyaluronic acid (HA) 68%、leptin 56% であった。以上の結果より、NASH の非観血的診断に血清 TyIV を含む血清マーカーが有効である可能性が示唆された。